

生物多様性保全と 持続可能な地域づくり

講演者 / 川口幹子 (一般社団法人 MIT)

生物多様性の保全のためには、人間は経済活動を抑制し、
不便な生活を強いられなければならないのでしょうか？

本来生物多様性とは、人に恵みを与え、暮らしの豊かさを生み出すものです。
自然資源豊かな日本で、長い歴史をかけて育まれてきた地域の資源を
うまく活用する技術や知恵。

そうした人の営みが里地里山の生物多様性を支えてきました。

しかし、化石燃料や市場経済の台頭と巨大な流通網の発達により、
経済活動は都市に集中し、人の生活は次第に自然から隔絶されてきました。
そして、地域の産業は廃れ、過疎が進み、里山は荒廃しました。

生物多様性の劣化と地方の衰退は、一見異なる分野の課題ですが、
根は同じなのです。

本セミナーでは、対馬の伝統的な暮らしと生物多様性との関わり、
里地里山の生物多様性保全の取組み紹介を通じて、生物多様性とは何かを学び、
その減少要因としての地域の衰退、生物多様性を活用した地域振興の在り方、
持続可能な社会づくりなどについて考えます。

日時 / 平成25年7月25日[金] 16:00~18:00 (講演+インターンシップ説明)

会場 / 青葉山キャンパス 地学・生物共通講義室

問い合わせ / nagashima@m.tohoku.ac.jp (生態適応センター・長嶋)